

望を妨ぐるあり。飲料としては泉水湧出し、其質稍々良く、其量も亦多し。爲めに多少の耕地を見る。

二十二日紅柳園ホンリウエンに達す、行程約十里。人家又僅に四戸、兵卒十二名を屯し、其の北側に拳大の耕地ありて、飲用には三個の泉水不足なく供給を充たすも、燃料は食料と共に之を遠く安西に仰げば、從て高價なるを免れず。地勢は峨々たる岩岡北東に走り、比高約三十米突、幅約一里の間に起伏せるが、而も樹木の眼に映するもの絶て有らず。

慘たる光景

二十三日大泉子に着す、行程約十一里、途上、凍雲俄に起り、朔風寒威と相加はりて天低く地に垂れんとし、斜陽影暗ふして、乾坤宛ら灰色と變ず。慘たる光景將た何物をか降らさんとはする。前途據るべきは單に大泉子あるのみにして、而も此處を距る尙ほ數里の外にあり。急ぐも詮なく、防ぐに術なし。唯々其の自然に委する有るのみ。

果せるかな飛雪驀然として至る。之を其の凄じき光景より推せば、刻一刻如何なる慘狀に陥るべさかは、到底豫想すべくもあらず。定家卿が『駒とめて袖打拂